

1. 総括

社会福祉法人の制度改革により枠組みの変更があり、平成29年度より本格実施となったが、多くの方のご協力により対応できたことについて感謝申し上げたい。しかし、社会福祉法人を取り巻く環境は依然として厳しく、本来の役割である公益的な役割をしっかりと果たしていけるよう、現在行っている事業とともに地域における公益性を念頭に事業を進めた。また、相模原における障害者支援施設での事件が起こり2年が経過したが、改めて利用者、障害のある方一人ひとりの尊厳を守ることを私達自身に問いながら、事業運営を行った。利用者支援に係る人員の確保については今後とも大きな課題であり、多くの方のご支援が必要な状況である。

2. 事業の総括

(1) かすみ会まつりの実施（平成29年6月3日）

地域の方との交流事業として、イベント、模擬店、ギャラリー展示、後援会主催のバザーなど各種催しを行い、一市四町の行政等の関係機関の皆様や地域住民の方々に多数お越しいただいた。地域へ広報活動を継続する中で、かすみ会の地域への認知度は高まってきたと感じる。地域の皆様との相互理解を深め信頼関係を築いていくことは、社会福祉法人として欠かせないことであり、また地域住民の方々との交流を深める中で地域の福祉課題を把握し、さらなる地域貢献を果たしたい。

(2) 社会福祉法人新制度の本格実施に係る対応状況

○新制度に対応した評議員会、理事会の実施と適切な運営

○情報発信

- ・広報委員会を開催し、広報誌かすみ会だよりを4回発行し、配布した。
- ・ホームページ、ブログ等のネットワークを活用し、情報発信を行った。

○地域における公益的取り組みの推進

- ・施設実習の受け入れ等の地域の福祉人材の養成
- ・障害者への理解促進のための見学、学習機会の提供
(地域における人権学習の実施等)
- ・ギャラリー滝井や交流施設こもれび、グラウンドの地域開放

(3) 人材の育成と虐待防止

①理念、倫理綱領、職員行動規範の再徹底

法人理念唱和を継続、NHKの特集番組「この子らを世の光に～共に生きる社会を目指して」を新人研修で視聴するなど理念のより深い理解と浸透を図った。

②個別支援計画を大切にした取り組みの強化

各事業所個別支援計画を大切にするため、利用者理解に努めた。

③外部研修・見学の実施

(i) 虐待防止の見識を深めるための研修参加

(ii) 専門性、支援技術向上の研修参加

その他、各事業所による同業他社の見学により、気づき、振り返りの機会を持つ。

④新人研修における虐待防止の徹底

新人研修やフォローアップ研修により、虐待防止に関する基本的な理解と実際の支

援場面での対応を徹底した。

⑥虐待防止委員会の開催（2回）

「風通しを良くするために、職員その他施設の見学を行っているのは良いことなので継続してほしい。」という意見があった。

⑦虐待防止役職員研修の実施（11月28日）同日同内容2回の講義。

研修： テーマ 社会福祉援助の専門職としての価値観を学ぶ。

内容 「ソーシャルワーク（社会福祉援助）の基礎～しっかりと「福祉」を実践するために～」

京都華頂大学 武田康晴先生の講義、グループワークによる演習

職員からは、利用者中心の支援を、「できる工夫」を考えて支援することの大切さへの気づきの声が多かった。

（4）物故者法要（11月11日）

・かすみ会交流施設こもれびにて実施。物故者家族、利用者家族、役職員 合計92名が参加。一人ひとりの命の尊厳を守る法人行事として継続する。

（5）苦情相談日の継続実施

・苦情を大切にすることを踏まえて、月一回の相談日を設け第三者委員3名の方に交替で対応いただいている。交流施設「こもれび」を利用し、相談者のプライバシーを確保した中で行い、第三者に話を聞いてもらえる場として利用者の方にも寄与している。

（6）防犯対策の実施

・昨年の女子棟に続き、男子棟にも防犯対策の強化策として、防犯カメラを設置するとともに、掃出し窓の外側に防犯フェンスの設置を行った。

（7）除雪対策の強化

・除雪機を購入し、職員の労力が負担軽減された。

（8）福祉避難所協定締結について

・彦根市より災害時の要配慮者の二次避難場所として、福祉避難所の協定締結の要請があり、当法人の交流施設「こもれび」を福祉避難所として利用する協定締結を行った。

（9）高齢化対策への取り組み状況

・特に介護の必要な方について支援を検討するとともに、かいぜ寮では入浴時の機械浴使用を積極的に行い、介護研修も実施した。利用者の心身の状況に応じて必要な場所で必要な支援が受けられるよう、相談支援事業所と連携しながら制度の枠組みを超えて連携していく必要もある。

また、行動障害のある方と高齢の方それぞれが、安心して豊かに生活できるような環境づくりを検討している。

（10）新規事業に関して

・湖東圏域における障がいのある方の地域生活の場を確保するため、女性利用を主とした新規のグループホームの整備計画について、協議書の提出を行った。提出にあたっては、県へ2回事前協議を行ったほか、施設の敷地内にグループホームの建設を可能とするよう

県条例の改正を求める「施設敷地内グループホームに係る要望書」を10月に提出した。また他法人の高齢者グループホームの見学を行い計画の参考とするなど準備を進めたが、財政的な厳しさや条例改正についても様々な議論があり、採択には至らなかった。

(11) 陶芸活動に係る賢愚窯を利用した焼成について

・支援体制確保のために、事業計画にて予定した賢愚窯を利用した焼成が平成29年度は実施できなかった。

(12) 人材確保対策

・当法人にとって人材確保が最重要課題の一つである。安定的なサービス提供及びかすみ会に期待されている事業の実現には、人材の確保と育成についての取り組みがますます必要となっている。

(具体的取組状況)

- ・求職者用パンフレットの作成
- ・ホームページにおける法人・事業所情報と求人情報の発信
- ・就職サイトの活用
- ・見学会の実施
- ・福祉人材センター主催職場説明会等への参画
- ・保育実習等施設実習生への採用案内
- ・内定者への取り組みとして、かすみ会行事の案内や懇親会等の実施

(13) 安全運転に関する事

- ・9月～12月の無事故・無違反運動に参加し、達成事業所として表彰を受けた。
- ・職域別無事故運動に参加し、3年連続無事故を達成し表彰を受けた。

(14) 自立支援協議会

・地域課題として、養護学校卒業後の重度の方や行動障害のある方の生活介護等の日中活動の場や生活の場が足りない状況がある。また就労継続B型が合わない方に対する、生活介護の枠組みで作業もできるような場が足りないことが議論されている。また計画相談に対する新たなニーズに答えきれていない現状があり、相談支援専門員の増員が求められている。

また地域全体での人材確保も課題となっており、圏域事業所への研修会の企画や求職者への広報等が議論されている。

3. 具体的事項

① 理事会開催（5回）と検討事項

平成29年	5月30日	平成28年度事業報告書（案）について他
平成29年	6月14日	理事長の選任について（案）他
平成29年	9月27日	新規グループホーム協議書の提出について 他
平成29年	12月20日	社会福祉法人かすみ会勤務限定正職員就業規則（案）について他
平成30年	3月13日	社会福祉法人かすみ会平成29年度補正予算（案）について他

② 評議員会の開催（2回）と検討事項

平成29年	5月30日	平成29年6月14日から平成31年6月定時評議員会の終結
-------	-------	------------------------------

の時まで 理事及び監事の選任（案）について 他
平成30年 3月22日 社会福祉法人かすみ会平成29年度補正予算（案）について 他

③ 監事監査の開催

平成29年 5月24日 平成28年度事業報告・決算報告について

④ 安全衛生委員会の開催（12回）と検討事項

平成29年 4月25日 新年度体制について他
平成29年 5月23日 あいさつ運動に向けて他
平成29年 6月27日 健康診断とストレスチェックの結果について他
平成29年 7月25日 適切な温度管理他
平成29年 8月22日 あいさつ運動の評価他
平成29年 9月26日 8月より継続ラジオ体操実施に向けて他
平成29年10月24日 ラジオ体操実施の評価他
平成29年11月28日 感染症予防（インフルエンザ・ノロウイルス）他
平成29年12月26日 4S運動報告（各事業所）他
平成30年 1月23日 運動促進対策他
平成30年 2月27日 運動促進対策(アンケート結果を受けて)他
平成30年 3月27日 今年度の振り返りと次年度の計画他

⑤ 第三者委員会の開催（2回）と検討事項

苦情について、各事業所で討議したあと、委員会を開き、対策の助言をいただいた。

平成29年 5月24日 苦情について他
平成29年10月13日 苦情処理経過について他

⑥ 虐待防止委員会の開催（2回）と検討事項

虐待防止対策について、各事業所で話し合い、委員会でご意見をいただいた。

平成29年 8月 9日 各事業所の虐待防止対策取り組みについて他
平成30年 2月15日 平成30年度虐待防止対策と年間スケジュール他

⑦ 事業管理会議の開催（9回）と検討事項

各事業所の責任者が事業の情報・状況・方針の共有を踏む為、話し合いを行なった。

平成29年 4月13日 新人職員の育成について他
平成29年 5月11日 重点項目実施計画について他
平成29年 6月20日 新人職員の育成状況について他
平成29年 8月 1日 虐待防止員会の内容について他
平成29年 9月12日 虐待防止員会を受けて他
平成29年10月10日 重点項目進捗確認について他
平成29年11月 7日 かすみ会まつり実行委員会体制について他
平成29年12月12日 第三者委員会を受けて他
平成30年 1月30日 新年度事業計画の説明について他

1. 総括

かいぜ寮では、54名の定員に対し現在、男性利用者28名、女性利用者23名の計51名の方が入所されている。健康面において、医務と連携し健康管理を図った。しかし3月にはインフルエンザの集団感染（利用者11名）があり、利用者の生活や活動を制限せざるを得ず、また地域の利用者にも影響が出ることとなった。

現在、地域からの利用希望者は増加しており、利用者の多くは短期入所、日中一時支援など、各種サービスを組み合わせて受入れを行っている。しかし、希望者が多く利用要望に全て応えることは難しく、今後も学校や関係機関と連携して地域利用者の生活を支える必要があると考える。そのためにはさらなる支援の質の向上と職員体制の整備が必要である。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 利用者理解を深め、虐待防止に取り組み、権利擁護意識の浸透を図る。

- ・虐待防止研修（グループワーク）に全職員が参加し意見交換が行えたことで、虐待についての意識向上や職員間のコミュニケーションが図れた。
- ・他施設の見学や交流を行い、支援方法や業務改善について職員間で互いに意見を出し合い検討できる機会になった。

(2) 高齢化（重度化）対策について取り組む。

- ・滋賀県社会福祉協議会の出前講座で介護福祉士を講師に招き、高齢・重度利用者への介護技術を指導していただき移乗ボード等の必要性を学ぶことができた。
- ・今年度は、車椅子からベットへの移乗ボードを購入し利用者が安全に移乗でき職員の体への負担も軽減できた。
- ・入所利用者を対象に転倒リスク評価を行い、リスクの高い利用者には、居室の環境を整え、本人に合った靴や保護帽を購入し転倒リスクの改善を行った。

(3) 行動障害のある人の支援について

- ・今年度は、強度行動障害のある方の利用要望に添うよう受け入れるため、短期入所棟を利用して支援を行った。次年度もできるだけ要望に応えられるよう人員体制を整え対応にあたりたい。

3. 事業・活動報告

(1) 日中活動

- ・サロンA班・サロンB班・療育班・ものづくり班の4班で個々の必要に応じた活動を提供した。
- ・目的に沿った対応が行えるよう、個別のマニュアルを新たに作成した。
- ・班内でグループ分けを行い、一人ひとりに支援が行き届くように改善した。

(2) その他

・利用者朝礼

毎週、週の予定の確認や医務連絡、栄養士の食事に関する話、食事リクエストの聞き取りなどを行った。また、月初めには誕生会を開催した。

・作品展示、出展

稲枝文化祭、ぴかつ to アート展へ展示を行った。

ぴかつ to アート展では、かいぜ寮から2名の利用者の作品が入選し展示された。

- ・余暇支援（休日開所日）
ドライブ・ビデオ鑑賞、折り紙、塗り絵、お菓子作り、散歩など

共通行事

	行 事
4月	お花見（14日）、彦根市長選挙期日前投票（18日～21日）
5月	彦根学園祭（21日）
6月	かすみ会まつり（3日）
8月	7月に亡くなった利用者を偲ぶ会（28日）、敬老外出（19日） 三津町夏祭り（20日）
9月	親子旅行（24日～25日）
10月	知ハン協スポーツフェスティバル（5日）、海瀬町運動会（9日） 衆議院選挙期日前投票（17日～20日）
11月	稲枝文化祭（4日）、文化の集い（13日）
12月	ぴかつ to アート展（1日）、クリスマス会（25日）
1月	初詣（3日）

4. 共通の活動

(1) 苦情・事故対策

苦情・事故報告から、再発防止に向けて事故内容を分析し対策を講じた。

苦情受付	2件	・支援内容について2件
事故報告	10件	・利用者の転倒事故8件・誤投薬1件・物損1件

(2) 危機管理（防災・防犯）

①防災

防災対応マニュアルを基に避難訓練を実施した。また海瀬町の防災訓練にも参加させていただき、地域との連携を図った。また救急救命研修を実施した。

日付	訓練内容
5月19日	通報・避難・消火
7月27日	AED研修
7月28日	通報・避難・消火（夜間）
11月17日	避難（水害）
2月15日	通報・消火

課題 ○訓練では固定電話からの通報では避難誘導が遅れるため、携帯電話等、避難しながら通報する必要がある。

○車椅子を使って避難した時、パンクしたタイヤなど不備も発見できた。定期的な点検も必要で、点検を習慣化する必要がある、ノーパンク式の車椅子の購入も検討する。

②防犯

一昨年度の障害者施設の事件があり、損害保険会社主催の福祉施設の防犯体制強化対策の研修に参加し、学んだことを取り入れ防犯マニュアルの見直しを行った。次年度は防犯訓練を実施したい。

(3) 研修

新人職員研修、中堅職員研修等を受講することで、仕事への心構えや専門知識の習得を図った。また、29年度は、他施設の見学や職員交流を行い、支援のことや職場のことを互いに語り合うことで、学びあうことができたと好評だった。次年度も県内の施設の見学・交流を図ることで職員の資質の向上とやりがいに繋げたい。

施設内研修・施設外研修

研修月	研修名	研修先	参加人数
4月	新人研修	施設内	4名
4月 4日	接遇マナー研修	草津市	3名
5月～ 8月	階層別ステップⅠ(新人職員)	草津市	2名
6月～ 7月	強度行動障害支援者養成研修(基礎編)	滋賀県	2名
6月～12月	サービス管理責任者研修	滋賀県	2名
7月21～22日	強度行動障害支援者養成研修(実践編)	滋賀県	2名
9月～10月	介護技術研修	草津市	1名
9月～10月	OJT推進研修	草津市	2名
9月～12月	強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践編)	草津市	1名
9月22日	福祉施設の防犯体制強化対策	大津市	1名
10/30・12/8	管理者キャリアアップ研修	大津市	2名
11月 9日	介護技術研修	施設内	10名
11月28日	虐待防止役職員研修(法人研修)	施設内	全員
12月 8日	支援スタッフ委員会	彦根市	2名
12月12日	記録の取り方についての研修	豊郷町	2名
12月19日	他施設見学	湖南市	4名
2月 2日	介護技術研修	豊郷町	2名

(4) ボランティア

環境

日付	団体名等	内容
4月29日	天理教江東支部	除草作業
5月13日	家族の会	除草作業
6月11日	海瀬町婦人会	除草作業
9月21日	海瀬町新生会	除草作業
10月14日	家族の会	芋掘り
10月19日	愛荘町秦荘日赤奉仕団	除草作業
12月 9日	家族の会	施設内清掃

*家族の会 墓地清掃(各月)

行事

日付	団体名等	行事名
6月 3日	稲枝地区民生委員児童委員協議会、ボランティアグループほほえみ、日赤奉仕団稲枝分団、愛荘町民生委員児童委員協議会、彦根みずほライオンズクラブ、個人ボランティア、彦根市地域包括支援センター、かすみ会後援会	かすみ会 まつり

(5) 実習・研修の受け入れ

平成29年度はびわこ学院大学2名、龍谷短期大学2名、京都文教短期大学4名の実習を受け入れた。滋賀県総合教育センターの初任者経験者研修（特別支援学校）の現地研修で8名を受け入れた。

また、介護体験として1名を受け入れた

5. 医務

(1) 通院・入院状況

		内科	外科	精神科	皮膚科	歯科	泌尿器科	整形外科	神経内科	呼吸器科	脳外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	救急外来	その他	合計
H	入院	2	1	2				1		2			1				9
28	通院	153	43	14	41	83	38	24		12	13		33	25	11	10	500
H	入院	1	2	1		3	1				2		1				11
29	通院	126	32	3	24	85	43	19	3	25	10	10	42	23	4	3	452

平成29年度の入院利用者は延べ11名と昨年度の9名と比べると増加した。利用者の高齢化が進む中、体調の変化に重点をおいて観察し、早期に医療へ繋げるようにしたが、通院治療では対応できない疾患が多く、点滴、投薬、検査、安静療養が必要となり入院治療を受ける利用者が増える結果となった。入院期間は8例が1週間未満で3例は2週間未満、1名はクモ膜下出血による緊急入院で治療の甲斐なく4日後に亡くなった。通院については3月のインフルエンザ集団感染等で内科受診者は相変わらず多かった。また、平成29年度は子宮がん検診を受けられた利用者さんがおられたため、産婦人科受診が10名となった。さらに歯科、泌尿器科、眼科は定期受診者が多く昨年と比べると増加している。ここでも利用者の高齢化や重度化が影響しているものと考えられる。

(2) 課題とその対応について

利用者の高齢化に伴う身体機能の低下と医療の必要性

高齢化が進むかぜ寮では、常に医療が必要となる利用者が増えている。そして一度医療に繋がると完全治癒は難しく、長期に治療を受けることになる。どんな治療を、どこで、どんな方法で受けるのか、患者が選択できる時代ではあるが、利用者自ら選択することはほとんどが困難であるため、家族、後見人の意見が重要になってくる。常に利用者の健康状態を伝え、家族、後見人に利用者の現状把握をしてもらい、的確な医療が提供できるよう努めている。また高度で専門的な治療を受けるため、協力医療機関から他の医療機関を紹介されるケースが増え、遠方の場合には通院に1日費やすことがある。その際も家族との連携、協力体制が重要となり、家族と関わる中で利用者が家族の一員であり、大切な存在であるとあらためて認識していただく機会となっていると思っている。今後、高齢利用者の生活を見直し、残る人生の過ごし方を選択できるようなサービスを調整することも急務と考えている。医療の必要な利用者が年々増えている現状で、協力医療機関である豊郷病院が身近にあり、利用者個々の特性を理解して受け入れてくださっている状況は大変心強く、日々の安心につながっている。

6. 給食

利用者の平均年齢は、男子45.3歳、女子54.7歳で、全体の54.9%の方が、嚥下が上手くできず誤嚥性肺炎を起こす方もあり、食事形態の見直しの必要な方、トロミ剤の必要な方が増加している。

栄養ケアマネジメントを強化し、栄養ケア会議を開いて、多職種できめ細かく食事摂取状態を把握し改善点を整理して利用者の健康上の問題点や、食環境についても話し合い、医師のアドバイスをいただきながら、改善してきた。また、利用者朝礼で食育を継続して実施した。

食事形態

主食/副食	主食		副食				
	おかゆ	軟飯	ペースト食	刻み食	粗刻み食	普通食	割合
男子	3名	1名	3名	2名	7名	16名	42.8%
女子	4名	2名	3名	7名	6名	7名	69.5%

※ 副食の割合とは普通食以外の食事を提供している利用者の割合をいう。

摂取栄養量

	エネルギー (Kcal)	たんぱく 質 (g)	脂質 (g)	カルシウム	塩分量 (g)
基準量	1750	50.0	48.6	600	10.0
かいぜ寮平均	1750	70.2	45.8	570	9.0

1. 総括

平成29年度は、家族の問題に向き合う機会が多い1年間だったと感じている。

障害を持つ当事者が子どもを育てているケースがあり、支援者がチームを組んで見守り、時に介入しながら子育てに対して不安感や苛立ちを抱え込まないよう支え、一人では難しいことをヘルパーなどの助けを得ながら少しずつ慣れていくのを、確かめていけるよう心がけている。

また、進路で悩んでいても家族の支えが得られず、学校や職場を辞めてしまう悲しいケースもあった。こころの傷を、これからどのように支援者が支えていくか、サービス提供以外の技量も必要とされるこれらのケースで、相談支援員の資質も試されている。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 利用者理解を深め、虐待防止に取り組む

児童のサービス利用に関して、定期的な訪問をしつつサービスの内容についての要望を伺うのみでなく、家族のしんどさや将来への不安なども聞かせていただき、必要な情報（他のサービス事業所の情報、障害者手帳取得の手続きやメリット等）についてもお伝えしている。手帳取得については、障害を認めるという心の準備が必要なことなので、特に慎重に伝えなければならないと感じている。

「家庭内が困窮しているため、食事もままならない。」といった、金銭的に苦しいという相談も目立った。高価なゲームや携帯電話料金のかかりすぎなどの不適切な使途、本人の年金が家族の借金返済に遣われているという事例など、「彦根市権利擁護サポートセンター禰（平成30年度より彦根市社会福祉協議会に業務委託）」や子育て支援担当課、生活保護担当課等にも広く相談しつつ、まずご家族が困っていることを話しやすい雰囲気を作り、どの関係者が聞いても統一した話が伝わるよう情報共有した。

継続して取り組み中のケースも多く、今後も気を抜かず関わっていきたい。

(2) 相談の質を高めるために、研修や事例検討などに積極的に参加し、さまざまな制度について学ぶ

平成30年3月末までの研修、講演会等への参加状況は以下のとおりである。

	内 容
6月	滋賀県強度行動障害支援者養成研修（実践編）
7月	滋賀県発達障害者支援センター公開講座（8、10、11月）
10月	地域の支援実践研修会（地域移行に関して）
11月	児童虐待防止関係者研修会
11月	湖東地域障害者自立支援協議会 行動障害部会研修会(実践編)
11月	彦根市子ども・若者支援地域協議会における支援に携わる人材養成のための講習会
1月	ファシリテーション研修会
1月	滋賀県虐待防止・権利擁護研修会
1月	重症難病事例勉強会
1月	高次脳機能障害リハビリテーション講習会
1月	知的障害者支援にかかる研修会(3月)
2月	障害理解を深めるための講演会

3月	湖東地域自立支援協議会 地域移行部会研修会
3月	権利擁護フォーラム(県社協主催)

他に、事例検討の場として行動障害部会の研修会、「湖東地域こころのケアチーム研究会」に参加している。

(3) 他業種との交流を行い、利用者に向けての情報発信に努める

9月と12月に彦根市社会福祉協議会が主催した「相談機関交流会」に参加し、他業種の相談業務担当者との交流をした。グループに分かれての事例検討や、ブースごとに各事業所の紹介コーナーを設けてあり興味深い内容であった。

また、今後も増えるといわれている高齢障害者の支援を地域で担うため、相談支援専門員と介護支援専門員との交流も行われており、平成30年度は4回にわたり共同での研修会を行う予定となっている。

平成29年度 計画相談支援 利用者内訳 (平成30年3月31日現在)

	かいぜ寮利用者	グループホーム利用者	つばきはら含む地域利用者	計
彦根市	26	2	54 (11)	82 (11)
豊郷町	2		8 (2)	10 (2)
愛荘町	6	1	26 (18)	33 (18)
甲良町	3			3
多賀町	1	2	4	7
東近江市	5	1	1	7
近江八幡市	3		2	5
日野町	1			1
野洲市	1			1
京都市	1			1
計	49	6	95 (31)	150 (31)

※就労継続B型支援利用にかかるアセスメント利用者含む

※()内は児童(再掲)

平成29年度障害者相談支援事業(市町が定める委託事業)実績

	彦根市	豊郷町	愛荘町	甲良町	多賀町
障害者	56	7	13	2	5
障害児	11	2	10		
実人員計	67	9	23	2	5
件数	225	63	70	9	18

1. 総括

グループホームでは、入居者の個性や特性に合わせた支援ができるよう、会議で情報共有し支援に取り組んだ。

そよかぜの入居者で、グループホームを出て一人暮らしを希望されている方がおられ、法人所有の自立実習棟での体験実習の計画を立て、次年度に各関係機関と連携して取り組むことができるように進めている。

環境面において、消防法でグループホームにスプリンクラーの設置が義務付けられ、8月に消火剤方式のスプリンクラーを設置した。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 虐待防止・権利擁護への取り組み

法人の虐待防止研修に参加し、自閉症の障がい特性について解りやすく説明して頂き、問題行動を取られる本人の気持ちが理解でき虐待防止・権利擁護の意識向上につながった。また、職員間で継続して話し合うことで情報の共有も行えた。

(2) 利用者の特性に応じた暮らしの場や環境改善に取り組む

世話人会議で個別支援計画を全員が共有し、援助を行うことで入居者との関係も深まった。

3. 入居者の状況

(1) 生活

(生活環境)

・入居者の居室掃除は、職員と計画を立てて共に行う方や、日々の習慣として世話人の声掛けで掃除機をかけ、床拭き、自室の整理をされる方もおられる。

(保健衛生)

・体重・体温・血圧(特定の入居者のみ)を定期的に計測し、体調の把握に努めた。体調不良時は看護師に相談し、指示を仰ぎ、必要に応じて医療機関に受診した。また、通院については、保護者が高齢等で同伴できないケースが増え、職員や看護師が付き添い、通院した。

(食事)

・苦手な食べ物でも献立と同じ食材を使用してメニューをアレンジして提供した。食事に関して困り事があった際は、管理栄養士に相談し問題解決に努めた。

(余暇)

月 日	内容	場所	参加者利用者	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
7月18日	BBQ大会	グループホーム	5名	6名
12月16日	クリスマス会	愛知川ボウル/スタミナ太郎	5名	3名
3月10日	日帰り旅行	麒麟ビール滋賀工場見学	5名	4名

・週末などの余暇活動は、個別支援計画に基づき、世話人や職員が外出(ドライブ、散歩、ボール遊びなど)の付添いを行った。また、特定の利用者は、必要に応じて他の事業所のサービスを利用できるよう計画した。

(2) 社会参加について

月 日	内容	場所	参加利用者	
			サソコモ滝井	そよかぜ
4月22日	彦根市市長選挙	稲枝支所	2名	0名
5月21日	彦根学園祭	彦根学園	4名	3名
7月 1日	スペシャルスポーツカーニバル	長浜ドーム	4名	3名
8月27日	納涼ソーメン流し	南稲部自治会館	3名	4名
9月24日	あゆみフェスティバル	東近江市役所	4名	0名
10月 9日	三津町地藏盆・夏祭り	地藏堂前	3名	1名
10月15日	衆議院総選挙	肥田町公民館	2名	1名
10月20日	ぴかつ to アート展	草津市	1名	0名
11月25日	クリスマスコンサート	滋賀県立大学	3名	0名

(3) 地域生活、職場における問題への対応

- ・利用者の日中活動の様子や帰省時の様子を連絡ノートを活用して、情報共有を図った。

(4) 相談

- ・職場や、ホーム内での人間関係、家庭における困り事など職員や世話人を通じて相談を受けて、助言を行えた。必要がある場合は、関係機関やご家族と情報を共有し、本人のサポートを行った。

(5) 個別支援計画

- ・5月と11月に個別懇談会を実施し、個別支援計画の説明を行ない、本人、家族・後見人等の意見を得ながら取り組むことができた。モニタリングは、世話人会議にて入居者の状況を確認し、本人と直接面談も行った。

(6) 家族、保護者等との連携

- ・帰省される方には、連絡ノートや、電話連絡で、情報共有を図った。また、ご家族に対する援助を目的としたケース会議にも出席し、関係機関と定期的に情報を共有した。

4. 防災について

火災を想定した避難訓練を年2回合同で実施し、通報や避難手順、不足物品の確認等を行った。入居者で緊急避難時、車椅子が必要な方もおられるため次年度購入を検討する。

5. 職員・世話人研修

全国グループホーム等研修会に参加し、高齢、重度化について受講した。

6. 事故対策（そよかぜ 0件）

サソコモ滝井 ・事故報告 2件（内訳） ・誤投薬 1件 他害1件

- ・薬の誤投薬があったため下記の3点を改善した。

- ①薬袋に朝(青)、昼(黄)、夕(赤)、眠前(緑)、と色をつけて、服用する時間が分かるようにした。
- ②「朝・昼・夕・眠」の薬が個別に保管できる引き出し式のケースを用意し、取り間違いを防ぐようにした。
- ③薬のから袋を入れた容器に薬が残っていないかを必ず確認することを申し合わせた。

1. 総括

(1) 就労移行支援事業

就労アセスメントは好調で13名の利用者がアセスメントを行った。圏域での期待は非常に高い状況にある。就労移行事業については利用者が少なく、アセスメントを通して利用者が増えるように進めていきたい。

重点課題に取り組んだ事項

○一人でも多くの方が、一般就労できるように支援する。

①就労に向けて、勉強会や企業見学、実習を行う。

(実施内容)

毎週水曜日に就労に向けて勉強会を行った。ハローワークや働き暮らし支援センターを訪問し、利用の仕方について学習を行った。ハローワークが開催するジョブガイダンスや、湖東湖北地域就職面接会に参加したり、TBカワシマやコープしが彦根センターの企業見学を行った。
結果：就労に対するイメージを持ってもらえ、少しずつ就労への準備を整えることができた。

(2) 就労継続支援B型事業

今年も2名の方が就労するなど、よい循環を続けている。来年度報酬改定では、工賃の実績によって報酬単価が決まる状況にあるが、報酬改定の状況から、就労継続支援B型を運営していくうえで、利用者の工賃向上と就労支援を強化出来なければ収入が減り運営が相当厳しくなる状況にある。

重点課題に取り組んだ事項

○利用者がやりがいを持って仕事ができるように、支援する。

①障害特性や能力に合わせて支援を工夫する。

(実施内容)

利用者が重たい荷物を運びやすいように台車を準備した。利用者に理解していただけるように一部作業で作業の仕方のマニュアルを作成した。利用者に安全に作業してもらうように台車の運び方やリフトが動いているときに入らないように提示をした。リハビリテーションセンターから作業療法士に講師として依頼しアドバイスをもらった。

結果：台車を準備することで、利用者から運びやすいと好評であった。また、学校からの実習生も多く、マニュアルを準備することで、慣れない方にも作業を伝える上で非常に役立った。作業療法士に来ていただくことで、専門的な視点から、利用者がより安全に作業ができ、仕事をしやすい環境を整えることができた。

②一般就労に必要な力をつけられるように支援する。

(実施内容)

社会就労事業振興センターが主催する介護職員初任者研修を1名受講し支援した。ハローワークが開催するジョブガイダンスへの参加や湖東湖北地域就職面接会への参加した。TBカワシマ、トランコムSC株式会社の企業見学を行った。職員がTBカワシマ、トランコムSC、彦根LIXIL製作所、ヨシハラクリーニング等へ訪問し職場開拓を行った。

結果：利用者の就職したいというニーズがあり、一人ひとりに合った仕事を探すため、関係機

関と連携して様々な企業を訪問し、情報を集め利用者がよりよい就労ができるように支援した。草津まで研修に行き、最後までやり遂げ資格を取ることで利用者が自信をつけることができた。ガイダンスや面接会へ行くことで、利用者が現状を知り、次に向かう力になった。

○工賃向上を図る。

①自主製品の売り上げ向上が図れるように商品開発等の検討を行う。

(実施内容)

滋賀県社会就労事業振興センターの製菓製パン研究会に参加した。イチゴチョコやフルーツミックスなど新商品の開発を行った。

結果：製菓製パン研究会でフードコーディネーターから情報をいただき、商品の向上に向けたヒントにより、イチゴチョコやフルーツミックスなど新商品を開発し販売促進を図った。

日頃の積み上げの中で、特にお歳暮和つふるが好調に売り上げを伸ばした。

②作業の効率や品質が高まるように工夫を行う。

(実施内容)

作業用の資材の置き場や作業場を整理し、動きやすいように通路を確保する。

結果：利用者が動きやすくなり、作業がしやすくなった。整理され導線ができたことで、以前より安全に効率よく作業ができるようになった。

(3) 共通

○虐待を防止し、よりよい支援を行う。

①研修会に参加し、職員で共有して支援を行う。

②障がいに対する専門性や理解を深める。

(実施内容)

「障害者差別解消法から1年」「発達障害の基本」等の研修に参加して、昼礼で復命を行って研修を共有した。彦根学園の相談支援員に来ていただき、「知的障害者の理解と支援について」研修会をつばきはらファクトリーの全職員に行った。

結果：研修会で職員が学ぶことはもちろんのこと復命を行うことで、障害の特性や障害者差別について理解が図れた。また、つばきはらファクトリーには、知的障害の利用者が多く、全職員で研修を受けることで、障害に対する基本的な理解を共有することができた。また、利用者の相談員に来ていただくことで、具体的な事例をあげ検討できたり、相談支援員と課題を共有するなど素晴らしい機会になった。

③個別支援計画について会議で話し合いを持ち、支援方法を共有する。

(実施内容)

職員会議にて、利用者のケース検討をKJ法を使って利用者のストレングスを確認し共有した。

結果：1回の職員会議で1ケースずつ丁寧に検討することで、生育歴を確認したり、それぞれが知っている利用者の情報を共有できた。また、利用者の良い所を共有することで、利用者の問題点よりも良い点を伸ばそうという意識が少しずつついてきている。

○職員の資質向上に取り組む。

①職員のスキルアップを目的とした研修計画を立て研修に参加し職員会議等で報告を行い職員全体の資質向上に取り組む。

(実施内容)

研修計画を立て、新人研修やチームリーダーの研修、食品衛生の研修、利用者の工賃向上を図る研修や、安全運転の管理者研修などに参加した。

結果：職員の基本的な研修から、和っふるやなちやつぷを製造しているため、衛生管理を整えるために知識を身につけた。車両で送迎や製品の運搬を行っているため、安全に運行するために基本的なことを学び、職員と共有を図った。

②他施設の見学を行い、様々な視点が持てるようにする。

(実施内容)

ハートワーク結、加古川はぐるまの家福社会、パレットミル見学をし、他の事業所の支援の仕方を学習し、職員間で共有を図った。

結果：他施設を見学することとで、自分たちとは違う支援の方法を学んだり、施設間どうし情報交換が図れ、支援する上で視野が広がった。

③職員の働きやすい環境を作る。

(実施内容)

毎月事務処理の日を設け、事務負担の軽減を図った。

結果：事務量が増える中、閉所日に事務処理を行うことで、効率的に事務処理が行うことができた。

2. 利用者の状況

(1) 就労移行支援事業

就労アセスメント状況

甲良養護学校（8名）、長浜北星高等養護学校（3名）、信楽学園（1名）在宅（1名）計13名

3. 就労に向けて支援

(1) 就労の状況

場 所	月 日	利用者
彦根市社会福祉協議会 南デイサービスセンター	4月 1日～	1名
パナソニックアソシエイツ滋賀株式会社	4月17日～	1名

フォローアップ：イチバンコーポレーション・SCREEN ホールディングス株式会社ジェラン・日本電気硝子ユニバーサポート・ユニバーサル製缶株式会社滋賀工場・パナソニックエクセルプロダクツ・株式会社ワッツオースリー滋賀倉庫作業所

4. 就労支援事業活動について

(1) 委託業務（請負）

請 負 先	内 容	
下請け	弘陽工業株式会社	ボルト組み立て・袋詰め・検品
	株式会社くすかみ	タオル箱詰め・検品 検針
	タカタ株式会社	シートベルトの部品組み立て
	株式会社 トコロ製作所	ナットの切粉取り・検品
	水谷醤油醸造場	醤油フタ閉め・検品
製造	稲枝商工会	なちやつぷ製造

	パレットミル	ブルーベリージャム製造
メンテナンス	聖泉大学	清掃作業
	かいぜ寮	清掃作業
	彦根市仮庁舎	清掃作業
	彦根市	除草作業・展示準備
	滋賀県	清掃・除草作業
その他	歯ブラシ定期交換サービス	歯ブラシの梱包・名づけ・販売 販売代理店 ステップあっぷ21
	古紙回収	ダンボール回収(かいぜ寮 水産試験所 聖泉大学など)
	海瀬町営農組合	苗箱洗い

(2) 自主製品販売

①常設販売

和っふる 場所：やさいの里2番館・美浜館・あいしょう館・Reachout

②自主製品販売日

彦根市・彦根障害者センター・彦根保健福祉センター・甲良町役場・豊郷町役場・愛荘町役場・稲枝支所・彦根市社協・豊郷町社協・くすのきセンター・甲良養護学校・愛知高等養護学校・SCREENホールディングス・夏原工業株式会社・トコロ製作所・タカタ株式会社・水谷醤油醸造所・油藤商事・ダスキン野田山支店・ヤクルト稲枝センター・滋賀給食センター・工房ふれっしゅ・地域生活支援センターまな・たんぼぼ作業所・びわこワークス・かいぜ寮などに訪問し記念日販売を行った。(記念日とは、母の日、ハロウィン、クリスマス、お歳暮・お年賀、バレンタイン、ホワイトデー)

5. 事故対策

事故報告	1件	草刈り機使用時の公用車の窓ガラス破損
------	----	--------------------

同じ事故を起こさないために、作業を担当する職員は、森林普及センター主催の刈払機作業の従事者安全衛生教育の講習を受けた。

6. 行事

内 容	日 時	参 加
お花見	4月 5日	19名
利用者旅行 場所：ダスキンミュージアム	5月10日	19名
バーベキュー大会	10月9日	30名
クリスマス会・忘年会	12月23日	27名
初詣 場所：多賀大社	1月 5日	18名

7. 避難訓練

実施日	訓練内容
5月29日	消火・通報・避難
8月17日	水害訓練
10月31日	消火・通報・避難

8. 実習生

インターンシップで、聖泉大学より(2月19日～3月2日)1名